

緊急確認システムによる災害時の安否確認

十文字学園女子大学

本学では、災害等でサーバが損傷した場合にも必要なデータを保全するため、定期的に必要最低限のデータをバックアップし耐火金庫に保管することでデータ保全対策をとっている。また、災害時の安否確認のために緊急確認システムを導入して災害時の対応に取り組んでいる。

1. 背景

教育・研究、学生支援等のデータは通常のバックアップをとっているが、災害等でサーバが損傷した場合、データも消滅してしまう危険がある。システムの再構築は可能だがデータの再作成は不可能に近い作業である。このため、学外でのバックアップサービスも検討したが、非常に高価であり、現実的ではないため、必要最低限のデータを定期的に記録し、耐火金庫に保管することでサーバ損傷時のデータ確保に取り組んでいる。また、昨年の震災を受け、災害時の教職員、学生の「緊急確認システム」を導入し、安否確認等の対応を進めている。

2. 取組内容

従来は学内にメールサーバを設置し、運用していたが、保存容量の増大、迷惑メール・ウイルスメールの即時対策、導入費・維持費の抑制等の目的から平成 23 年 9 月にメールシステムを入れ替え、教育機関向けのメールサービスを利用することにした。その際、学内に残す機能として携帯電話用のサービスと災害時の教職員、学生の「緊急確認システム」を導入し対応を進めている。

3. 効果

右図が携帯電話でアクセスするメールのトップ画面であり、「緊急確認」ボタンを選択することにより、安否確認システムの画面が開き、利用できるようになっている。平成 23 年 10 月に全学的な避難訓練を行い、その際に、訓練後に安否確認システムの試験運用を行うこと及び、安否確認の手順を事前に学生に通知した。

当日は、学内メール及び、学生が登録している携帯メールに安否確認依頼のメールを送信した。学生が、メールに記された URL、もしくは、事前に通知されている画面にアクセスし、大学からの質問に回答することによって、大学側は学生の安否確認情報を取得することができた。

4. 今後の課題

試験運用を行った結果、「表示がわかりにくい、日常使用するメール画面に安否確認は不適切」、等の指摘があり、表示を「差出人」、「メールアドレス」にする等のわかりやすい表示に変更するとともに安否確認以外にも利用することから名称を「緊急確認」に変更した。また、アクセスが集中した場合、繋がらなくなり、送信しても「送信しました」というメッセージが表示されないため、再度繰り返して送信、さらに混雑をまねくという状況が発生したため、現在ストレステストの結果をもとにシステムの改良と運用での回避を検討している。

